
ADVANTEST
株式会社アドバンテスト

取扱説明書

R3553

プリセレクタ

MANUAL NUMBER OJA02 9308

適用機種

R3265/3271シリーズ

スペクトラム・アナライザ

当社の製品が外国為替および外国貿易管理法の規定により、戦略物資あるいは役務等に該当する場合、輸出する際には日本国政府の許可が必要です。

R 3 5 5 3
プリセレクト
取扱説明書

緒言

緒言

R3553 プリセレクトは、R3265/3271スペクトラム・アナライザに接続して使用します。
R3265/3271スペクトラム・アナライザ取扱説明書も併せて参照して下さい。

目次

1. 概説	1 - 1
1.1 製品概要	1 - 1
1.2 使用開始の前に	1 - 2
1.2.1 付属品の確認	1 - 2
1.2.2 使用周囲環境	1 - 3
1.2.3 本器の保存、清掃、輸送	1 - 4
1.2.4 電源投入の前に	1 - 5
2. 製品パネル面の説明	2 - 1
2.1 正面パネルの説明	2 - 1
2.2 背面パネルの説明	2 - 2
3. 接続方法	3 - 1
3.1 正面パネルの接続	3 - 1
3.2 背面パネルの接続	3 - 2
4. 基本的な使い方	4 - 1
4.1 イニシャル・チェック	4 - 1
4.2 基本動作	4 - 2
4.2.1 各キーの説明	4 - 2
4.3 キャリブレーション（補正）	4 - 4
4.4 バックアップ	4 - 6
4.5 プリセット（初期設定）	4 - 7
5. GPIB	5 - 1
5.1 概要	5 - 1
5.2 GPIBコード	5 - 2
6. 性能諸元	6 - 1
付録	A - 1
A.1 R3265/3271の画面表示	A - 1
A.1.1 レベル・オフセット	A - 1
A.1.2 エラー・メッセージ	A - 2
A.2 エラー・コード	A - 3
索引	I - 1
外観図	

図一覧

図番号	名 称	ページ
1 - 1	使用周囲環境	1 - 3
1 - 2	ヒューズの交換	1 - 5
1 - 3	電源コードのプラグとアダプタ	1 - 6
A - 1	レベル・オフセット表示	A - 1

R 3 5 5 3
プリセクタ
取扱説明書

表一覽

表一覽

表番号	名 称	ページ
1 - 1	標準付属品	1 - 2
1 - 2	電源条件	1 - 5
4 - 1	保存 / 読出し可能なR3553 の設定項目	4 - 6
4 - 2	工場出荷時の初期値	4 - 7
A - 1	レベル・オフセット表示の設定	A - 1
A - 2	接続に関するエラー・メッセージ	A - 2
A - 3	故障時のエラー・コード	A - 3
A - 4	ケーブル誤接続時のエラー・コード	A - 4

1. 概説

1.1 製品概要

R3553 プリセクタは、9kHz～3.6GHzまでの周波数をカバーするバンド・パス・フィルタより構成されています。

本器に適合するスペクトラム・アナライザは、R3265 とR3271 の 2機種です。

本器の特長

- ① 通過フィルタはR3265/3271の掃引周波数と、自動的に連動して動作します。本器の周波数バンドの設定は、必要ありません。
- ② プリアンプのゲインが25dBのため、微小信号や雑音の測定が容易となります。
- ③ プリアンプおよびアッテネータは、R3265/3271の基準レベルに連動するため、レベルの直読が可能です。
- ④ 3dB のリニアリティ・チェック機能を内蔵しており、R3265/3271の飽和が容易にチェックできます。

1.2 使用開始の前に

1.2.1 付属品の確認

- ① 製品の外観に破損がないか確認して下さい。
- ② 付属品の数量および規格を [表1-1] に従って確認して下さい。

もし、破損していたり、付属品の不足等がありましたら、ATCE、または最寄りの営業所、代理店までお知らせ下さい。

所在地および電話番号は巻末に記載してあります。

表 1 - 1 標準付属品

品名	型名	ストックNo.	数量	備考
電源ケーブル (アダプタ)	A01412 (KPR-18)	DCB-DD3130X01 (JCD-AL003EX03)	1 (1)	
N-BNC 変換アダプタ	JUG-201A/V	JCF-AF001EX03	1	
接続ケーブル	57FE-336-01W	DCB-RR1156X01	1	コントロール用
	————	DCB-FF5171X01	1	RF/N-N用
	————	DCB-FF0981X02	2	2V/nGHz 用, CAL用
電源ヒューズ	————	DFT-AA5A	2	5A/250V
高周波ヒューズ	————	DFS-AGR125A	1	
取扱説明書	JR3553	————	1	和文

(お願い) 付属品の追加ご注文などには、型名 (またはストックNo.) でご用命下さい。

1.2.2 使用周囲環境

- (1) 直射日光、腐食性ガスの発生する場所、埃の多い場所や、振動の多い場所での使用は避けて下さい。
- (2) 周囲温度は 0℃～+50℃の範囲、湿度85%以下の場所で使用して下さい。
- (3) 本器の保存温度範囲は、-20℃～+60℃です。本器を長時間にわたって使用しない場合は、ビニール・カバーを被せるか、または段ボールに入れ、直射日光の当たらない乾燥した場所に保管して下さい。
- (4) 本器は、AC電源ラインの雑音に対して十分に考慮した設計がなされていますが、できるかぎり雑音の少ない環境で使用して下さい。雑音が避けられない場合は雑音除去フィルタなどを使用して下さい。

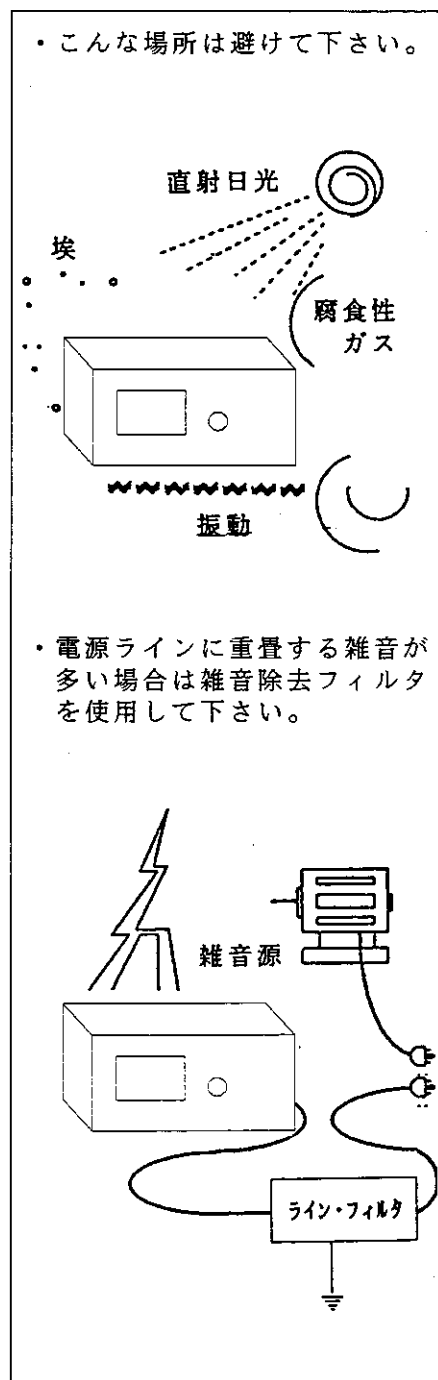


図 1 - 1 使用周囲環境

1.2.3 本器の保存、清掃、輸送

(1) 保存

本器の保存温度範囲は -20°C ～ $+60^{\circ}\text{C}$ です。本器を長時間使用しない場合はビニール・カバーを被せるか、または段ボール箱に入れ、直射日光の当たらない乾燥した場所に保管して下さい。

(2) 清掃

アルコールをしみ込ませた柔らかい布などで清掃して下さい。アルコール以外は、使用しないで下さい。

注意

保守、洗浄に際して、プラスチック類を変質させるような溶剤（例えば、ベンゼン、トルエン、アセトン等の有機溶剤）は、使用しないで下さい。

(3) 輸送

本器を輸送する場合は最初にお届けした梱包材料か、同等以上の梱包材料を使用して下さい。

梱包材料を紛失したときは5mm以上の厚さをもつ段ボール箱を用い、この段ボール箱の内側に緩衝材で本器をくるむようにして下さい。

本器を緩衝材でくるんだ後、付属品を入れ、再び緩衝材を入れて段ボール箱を閉じ、外側を梱包用ひもで固定して下さい。

1.2.4 電源投入の前に

警告

1. 本器を接続する電源が [表1-2] に示す条件以外の場合、本器を破壊する恐れがあります。
2. 規格値に合わないヒューズを取り付けて本器を使用した場合、本器を破壊する恐れがあります。

(1) 電源条件

本器の動作可能電源条件を [表1-2] に示します。

表 1 - 2 電源条件

電源	条件	
入力電圧	90V~132Vrms	198V~250Vrms
周波数	48~66Hz	
消費電力	100VA以下	

(2) ヒューズの確認

電源ACラインのヒューズは、入力電圧90V~132V、198V~250Vのどちらでも5A/250Vです。

ヒューズは背面パネルの電源コネクタ内に入っていることを確認して下さい。

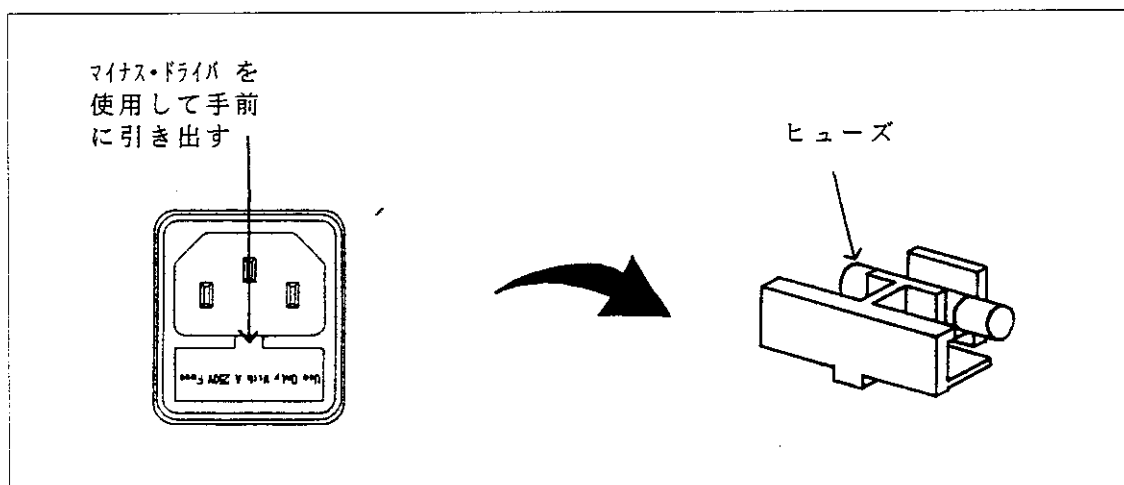


図 1 - 2 ヒューズの確認

(3) 電源コードの確認

電源コードのプラグは 3ピンで、丸い形のピンがアースになっています。

2ピン・アダプタKPR-18を使用してコンセントに接続するときは、アダプタから出ているアース・リード線、または背面パネルにあるアース端子を、必ず外部のアースと接続して大地に接地して下さい。

このアダプタKPR-18は、電気用品取締法に準拠しています。2本の電極の幅は異なるので、コンセントに差込むときは、プラグとコンセントの方向を確認して接続して下さい。KPR-18がご使用のコンセントに接続できない場合は、別売のアダプタKPR-13をお求め下さい。

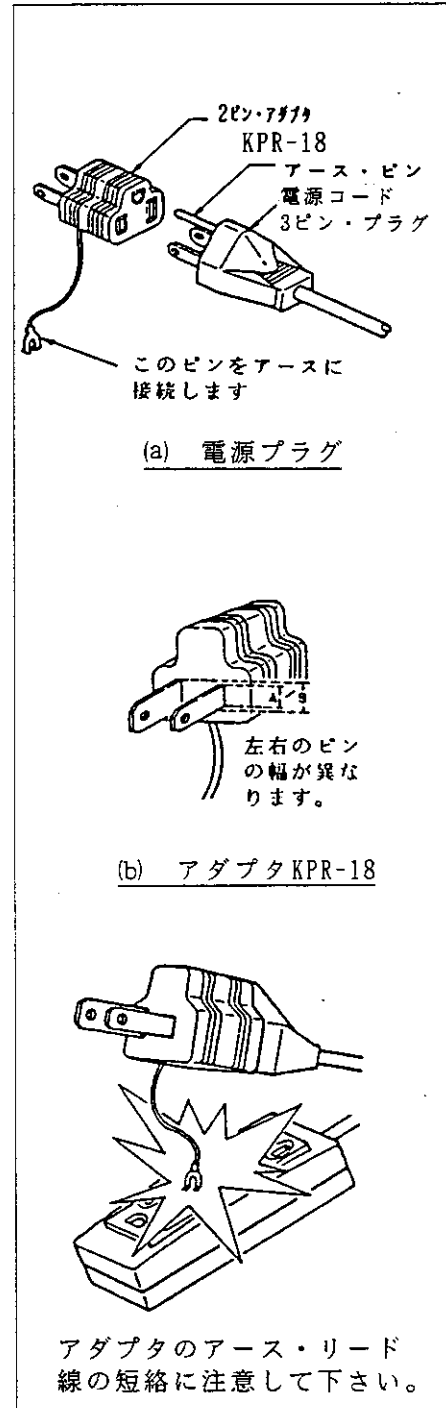


図 1 - 3 電源コードのプラグとアダプタ

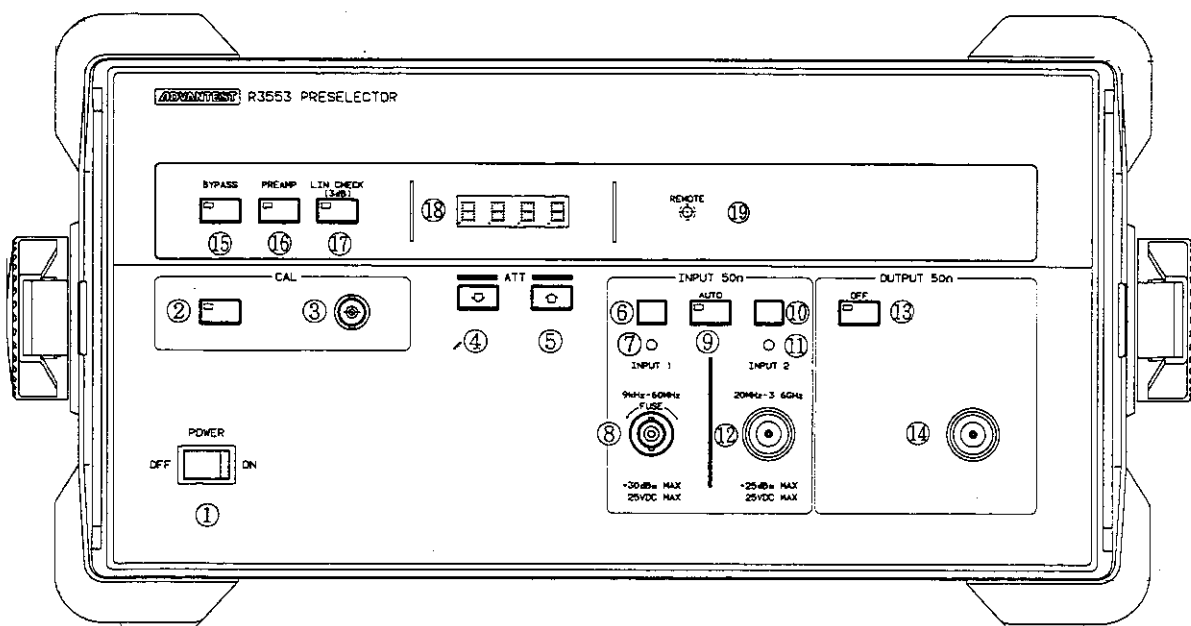
R 3 5 5 3
 プリセレクト
 取扱説明書

2.1 正面パネルの説明

2. 製品パネル面の説明

2.1 正面パネルの説明

- ① POWER スイッチ : 電源の ON/OFF
- ② CAL キー : CAL の ON/OFF
- ③ CAL コネクタ : BNC 型出力コネクタ
- ④ UP キー : ATT /10dB/UP
- ⑤ DOWN キー : ATT /10dB/DOWN
- ⑥ INPUT 1 キー : INPUT 1 に設定
- ⑦ INPUT 1 ランプ : INPUT 1 の設定時に点灯
- ⑧ INPUT 1 コネクタ : BNC 型入力コネクタ
このコネクタは、保護用高周波ヒューズが内蔵されています。
- ⑨ AUTO キー : INPUT 1/INPUT 2 の自動切替え
- ⑩ INPUT 2 キー : INPUT 2 に設定
- ⑪ INPUT 2 ランプ : INPUT 2 の設定時に点灯
- ⑫ INPUT 2 コネクタ : N 型入力コネクタ
- ⑬ OUTPUT OFF キー : 出力の ON/OFF
このキーのランプが点灯しているとき、出力が OFF になります。
- ⑭ OUTPUT コネクタ : N 型出力コネクタ
- ⑮ BYPASS キー : BYPASS の ON/OFF
- ⑯ PREAMP キー : PREAMP の ON/OFF
- ⑰ LIN. CHECK キー : LIN. CHECK の ON/OFF
- ⑱ ATT 表示部 : ATT の値の表示またはエラー・メッセージ
- ⑲ REMOTE ランプ : GPIB 操作時に点灯



2.2 背面パネルの説明

- ① PRESELE I/O INTERCONNECTコネクタ : R3265/3271との通信に用います。
- ② 2V/nGHz コネクタ : BNC 型入力コネクタ ; R3265/3271から掃引信号が入力されます。
- ③ AC電源用コネクタ : 3ピン構造で、中央下のピンはアース用の端子です。上部のフタを引き出すと、電源ヒューズが取り出せます。

④ 注意

ヒューズ交換は、電源電圧に合った規格、型のものを用いて下さい。

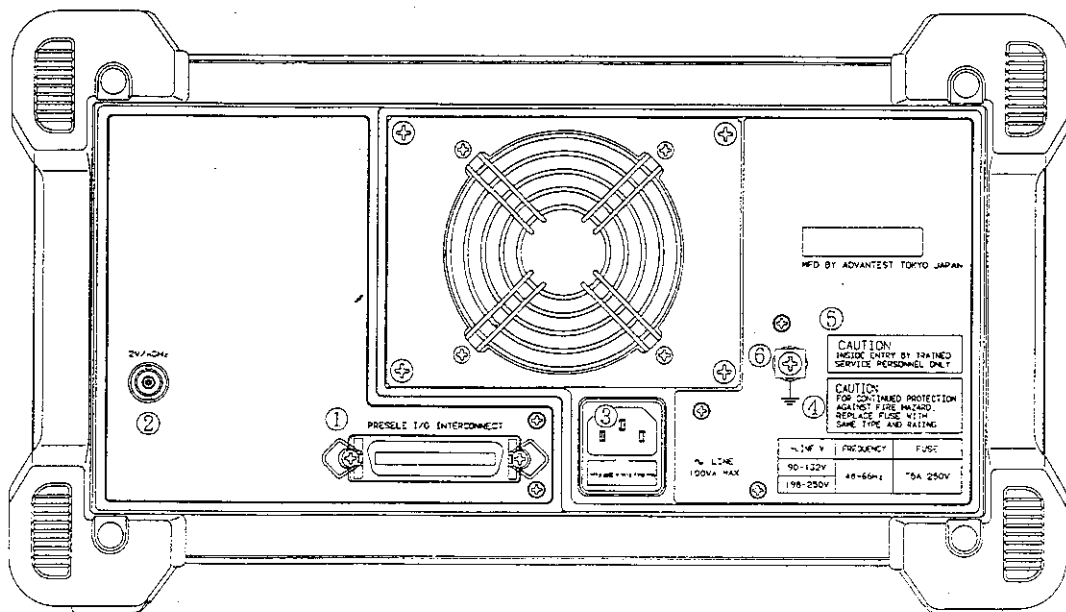
FOR CONTINUED PROTECTION AGAINST FIRE HAZARD.
 REPLACE FUSE WITH SAME TYPE AND RATING.

⑤ 注意

サービスマン以外の方は、パネルを開けて製品内部を点検しないで下さい。

INSIDE ENTRY BY TRAINED SERVICE PERSONNEL ONLY.

- ⑥ 接地用端子 : 電源ケーブル用の3ピン・コネクタや2ピン用アダプタが使用できず、本体から大地接地する場合に用います。

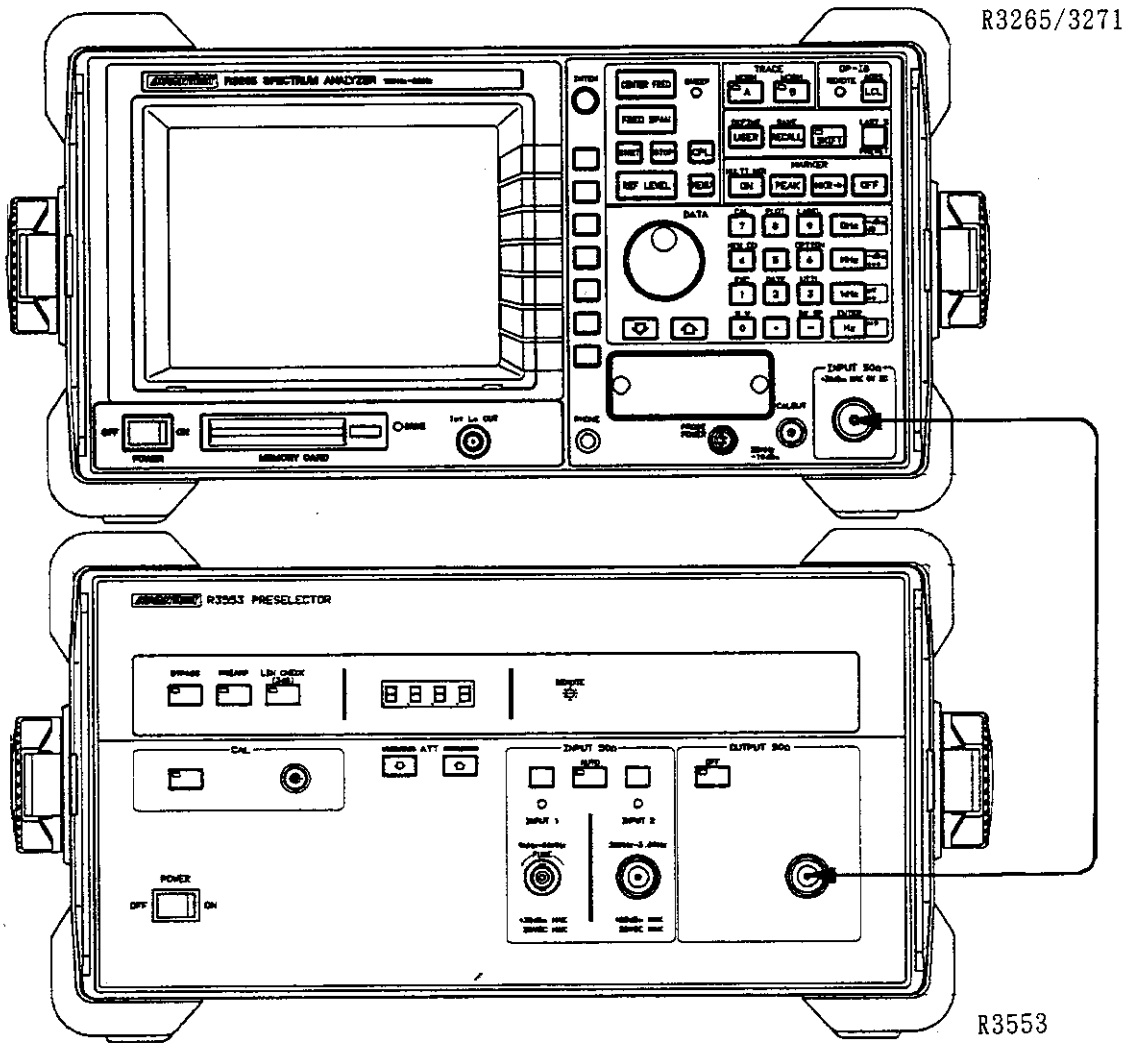


R 3 5 5 3
プリセレクタ
取扱説明書

3. 接続方法

3.1 正面パネルの接続

- ① R3553 の上にR3265/3271を載せて下さい。
- ② R3553 のOUTPUTコネクタとR3265/3271のINPUT コネクタを接続して下さい。

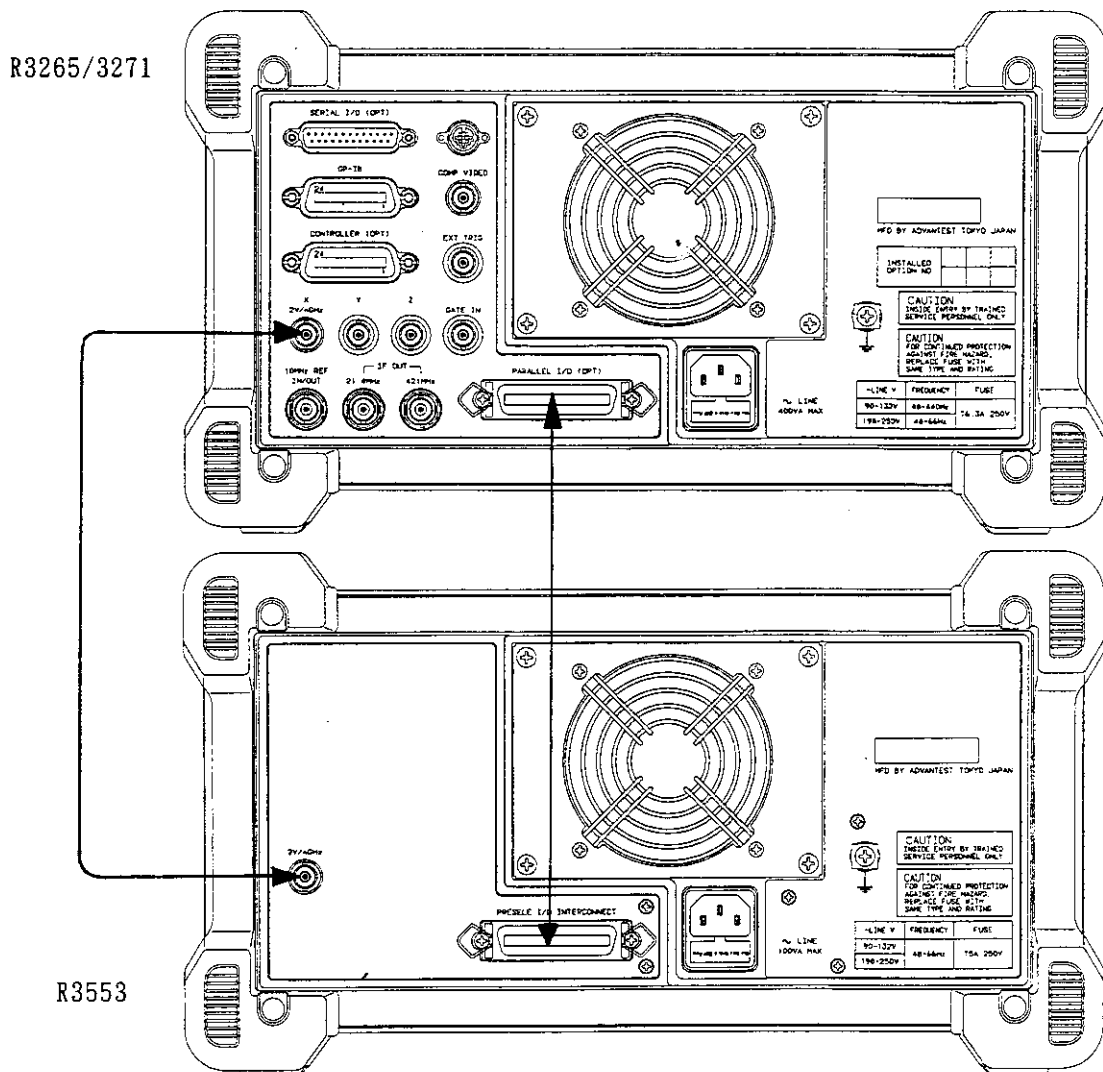


R 3 5 5 3
 プリセレクト
 取扱説明書

3.2 背面パネルの接続

3.2 背面パネルの接続

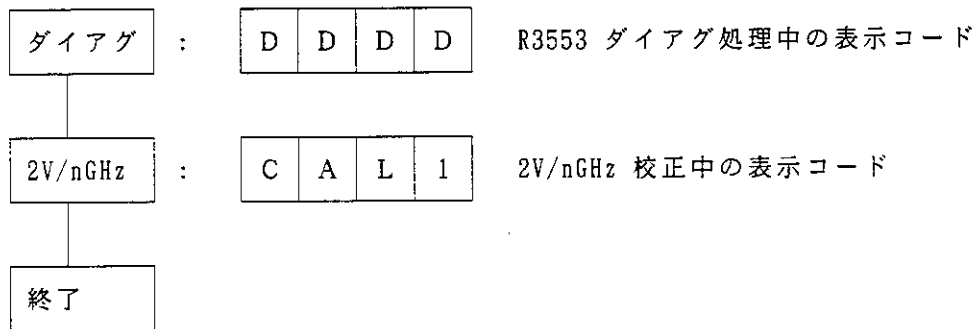
- ① R3553 のPRESELE I/O INTERCONNECTコネクタとR3265/3271のPARALLEL I/Oコネクタを接続して下さい。
- ② R3553 の2V/nGHz コネクタとR3265/3271の2V/nGHz コネクタを接続して下さい。



4. 基本的な使い方

4.1 イニシャル・チェック

R3553 と R3265/3271 の電源を ON すると自動的にイニシャル・チェックが始まります。
イニシャル・チェックには、ダイアグと 2V/nGHz の校正があります。



[イニシャル・チェック処理時間]

- 約 8 秒： 校正データが前回と同じとき
- 約 3 分： 校正データが前回と異なるとき、または新規校正のとき

4.2 基本動作

R3553 の設定は、R3265/3271に組み込まれています。
よって、R3553 の設定（プリアンプ、アッテネータ）に応じたデータの後処理をする必要はありません。

4.2.1 各キーの説明

BYPASS

各入力と出力を結合させ、フィルタ、アッテネータ、プリアンプをバイパスさせます。

ATT /

R3553 のアッテネータの値を0 ~50dBの範囲で設定できます。 で10dB上がり、
 で10dB下がります。

PREAMP

小信号を測定するとき、プリアンプをONにして下さい。約25dBの利得があります。

LIN. CHECK

大信号または広帯域信号でR3265/3261が飽和していないかどうかの確認を行えます。
LIN. CHECK ONとしたとき、3dB 変化すればR3265/3271が飽和していないことがわかります。

INPUT 1

9kHz~60MHz までの測定に用います。
なお、STOP周波数にて測定範囲が異なります。

STOP FREQ.	測定範囲
STOP FREQ. \leq 200kHz	9kHz ~ 150kHz
STOP FREQ. $>$ 200kHz	150kHz ~ 60MHz

INPUT 2

20MHz ~3.6GHzまでの測定に用います。

(注) SPAN \leq 1GHzで使用して下さい。

AUTO

設定周波数により INPUT 1, INPUT 2, BYPASS(INPUT 2) を自動選択します。

START FREQ.	STOP FREQ.	設定
—————	STOP FREQ. \leq 60MHz	INPUT 1
START FREQ. < 3.6GHz	STOP FREQ. > 60MHz	INPUT 2
START FREQ. \geq 3.6GHz	—————	BYPASS(INPUT2)

OUTPUT OFF

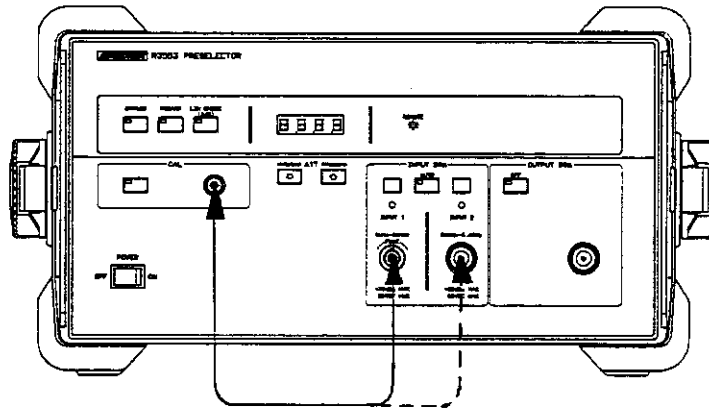
R3553 の出力をOFF にします。

4.3 キャリブレーション（補正）

R3553 は、CAL 信号を用いてトラッキング・フィルタのレベルと同調周波数をキャリブレーション（補正）することができます。また、このキャリブレーションにはレベル補正のみの簡易CAL と周波数、レベル補正をするFULL CALがあります。（簡易CAL でCAL 中に補正範囲を超えた場合、CAL 中のブロックのみFULL CALに入ります。）

INPUT1およびINPUT2のキャリブレーション操作手順は、以下のとおりです。

- ① 付属のケーブルで、INPUT1（INPUT2）コネクタとCAL コネクタとを接続して下さい。
INPUT2コネクタへの接続には、N-BNC 変換アダプタを使用して下さい。



- ② CAL キーを押して下さい。

1	/	2	?
---	---	---	---

 と表示されます。

- ③ [簡易CAL]

INPUT1 キー（ INPUT2 キー）を押して下さい。

INPUT1(INPUT2)のキャリブレーションが実行されます。

- ③' [FULL CAL]

AUTO キーを押して下さい。（もう1度押すと簡易CAL に戻ります。）

F	U	L	L
---	---	---	---

 と表示されます。

INPUT1 キー（ INPUT2 キー）を押して下さい。

INPUT1(INPUT2)のキャリブレーションが実行されます。

④ CAL 中の表示

CAL はフィルタのブロックごとに行われ、表示はCAL 中のフィルタのブロックを示します。

INPUT1 ; FIL1 → FIL7
INPUT2 ; FIL1 → FIL6

F	I	L	1
---	---	---	---

[キャリブレーションの処理時間]

	FULL CAL	簡易CAL
INPUT1	約 1分	約 1分
INPUT2	約50分	約10分

注意

1. キャリブレーション機能は、30分以上のウォーム・アップを行ってから実行して下さい。
2. キャリブレーションを中断したいとき、再度 キーを押して下さい。
このとき、キャリブレーションを終了したブロックのデータは有効となります。^{*1}

*1 : キャリブレーションは、フィルタのブロックごとに行われます。キャリブレーションが終了したブロックごとにデータが記憶されます。

4.4 バックアップ

R3553 の設定は、R3265/3271においてバックアップ・メモリまたはメモリ・カードを使用して保存／読出しができます

R3265/3271で保存／読出しが可能なR3553 の設定項目を[表4-1]に示します。

表 4 -1 保存／読出し可能なR3553 の設定項目

項 目	設 定
BYPASS	ON/OFF
PREAMP	ON/OFF
LIN. CHECK	ON/OFF
OUTPUT	ON/OFF
INPUT	AUTO/INPUT1/INPUT2
ATT	0/10/20/30/40/50dB

※保存／読出しについては、R3265/3271スペクトラム・アナライザ取扱説明書の [5.6 セーブ、リコール機能] を参照して下さい。

4.5 プリセット (初期設定)

R3265/3271をプリセットするとR3553 の設定は、工場出荷時の初期値またはユーザ定義の初期値に設定されます。

※プリセットの機能および操作については、R3265/3271スペクトラム・アナライザの取扱説明書[5.7 プリセットとラスト・ステートの機能]を参照して下さい。

表 4 - 2 工場出荷時の初期値

項 目	設 定
BYPASS	OFF
PREAMP	OFF
LIN. CHECK	OFF
INPUT	AUTO
OUTPUT ON/OFF	ON
ATT	10dB

注意

R3553 とR3265/3271を接続して使用すると、背面パネルのX または2V/nGHz コネクタの出力信号の設定が2V/nGHz となります。

MEMO



A large, empty rectangular area with rounded corners, enclosed by a solid black border. This area is intended for writing the content of the memo.

5. GPIB

5.1 概要

R3553 は、R3265/3271を介してIEEE規格488-1978の計測バスGPIB (General Purpose Interface Bus)でのコントロールが可能です。

なお、GPIBの詳細に関しては、R3265/3271スペクトラム・アナライザ取扱説明書を参照して下さい。

R3553 のGPIB操作中は、REMOTEランプが点灯します。このとき、キー入力は受け付けられなくなります。

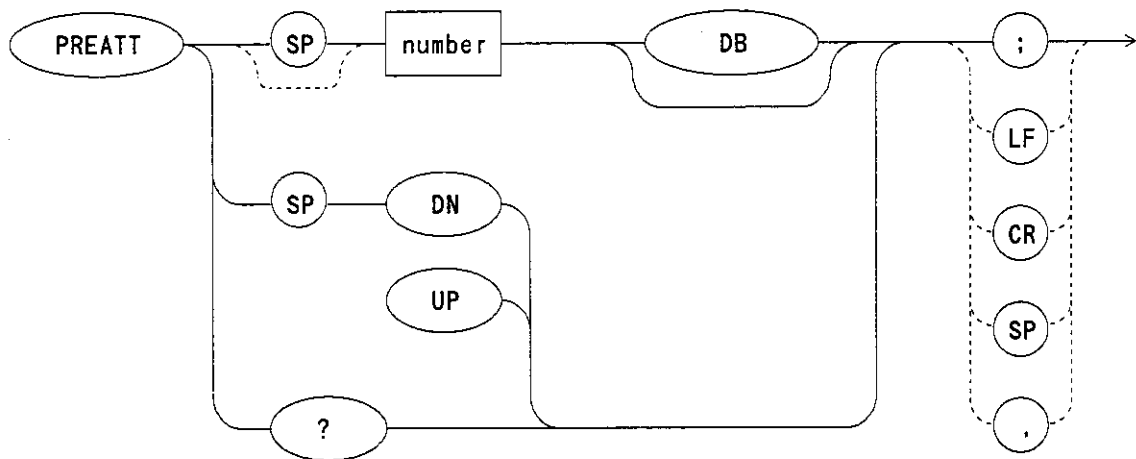
R3265/3271のGPIB解除(LCLキーを押す)により、R3553 のREMOTEも解除されます。

5.2 GPIBコード

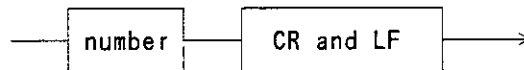
PREATT

Preselector Input Attenuation

Syntax



Query Response



Parameter

number プリセクタの入力アッテネータを0 から50の範囲で設定します。

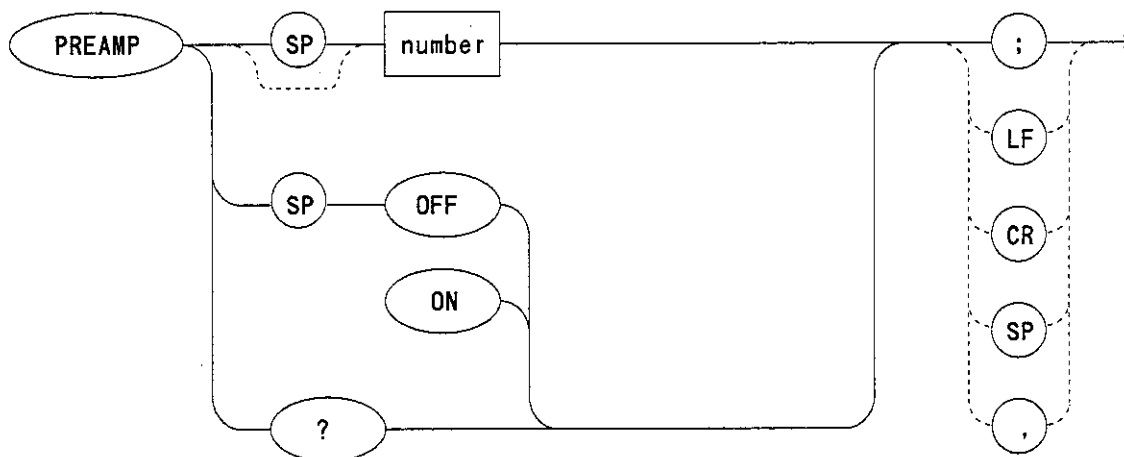
Same Commands

- A0 プリセクタの入力アッテネータを 0dBに設定します。
- A1 プリセクタの入力アッテネータを10dBに設定します。
- A2 プリセクタの入力アッテネータを20dBに設定します。
- A3 プリセクタの入力アッテネータを30dBに設定します。
- A4 プリセクタの入力アッテネータを40dBに設定します。
- A5 プリセクタの入力アッテネータを50dBに設定します。

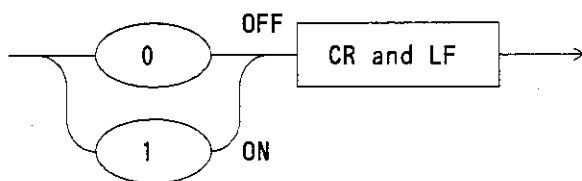
PREAMP

Pre-Amplitude Function

Syntax



Query Response



Parameter

number プリセレクタのプリアンプをオン/ オフします。(0はオフ、1はオン。)

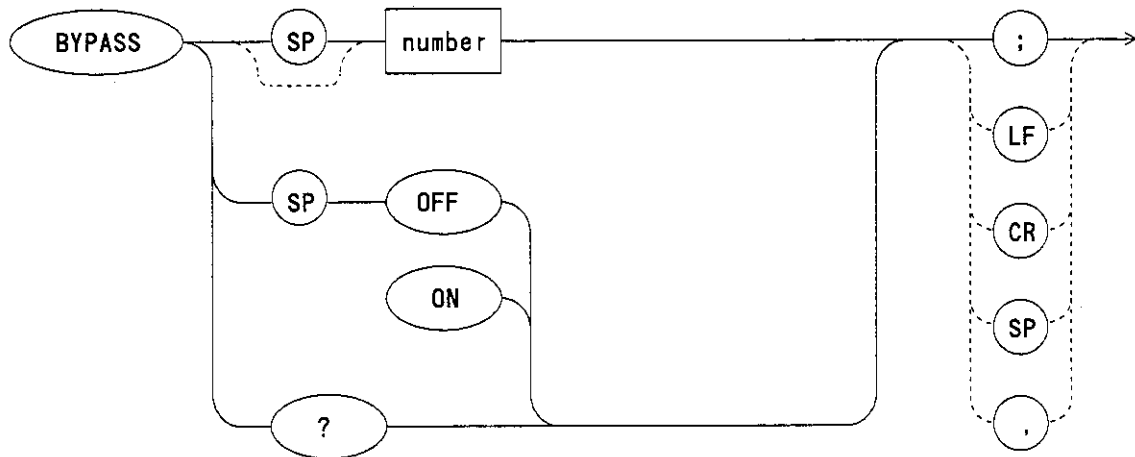
Same Commands

P0 プリセレクタのプリアンプをオンします。
P1 プリセレクタのプリアンプをオフします。

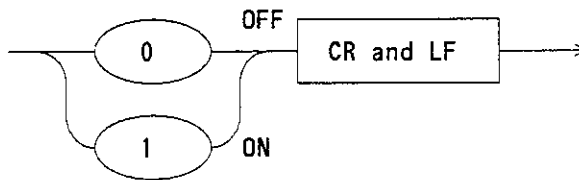
BYPASS

Preselector Bypass Function

Syntax



Query Response



Parameter

number バイパス機能をオン/ オフします。(0はオフ、1 はオン。)

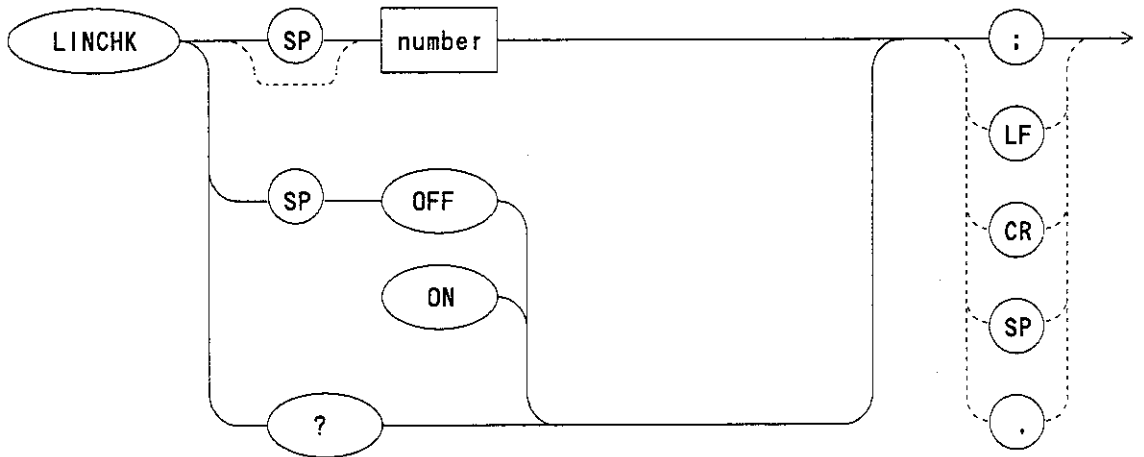
Same Commands

BO バイパス機能をオンします。
BF バイパス機能をオフします。

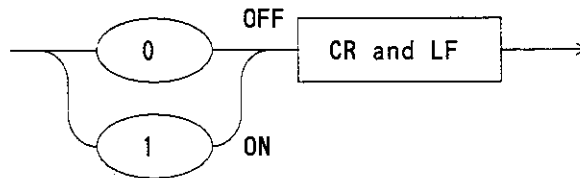
LINCHK

Linearity Check Function

Syntax



Query Response



Parameter

number プリセクタのリニアリティ・チェックをオン/ オフします。
(0はオフ、1はオン。)

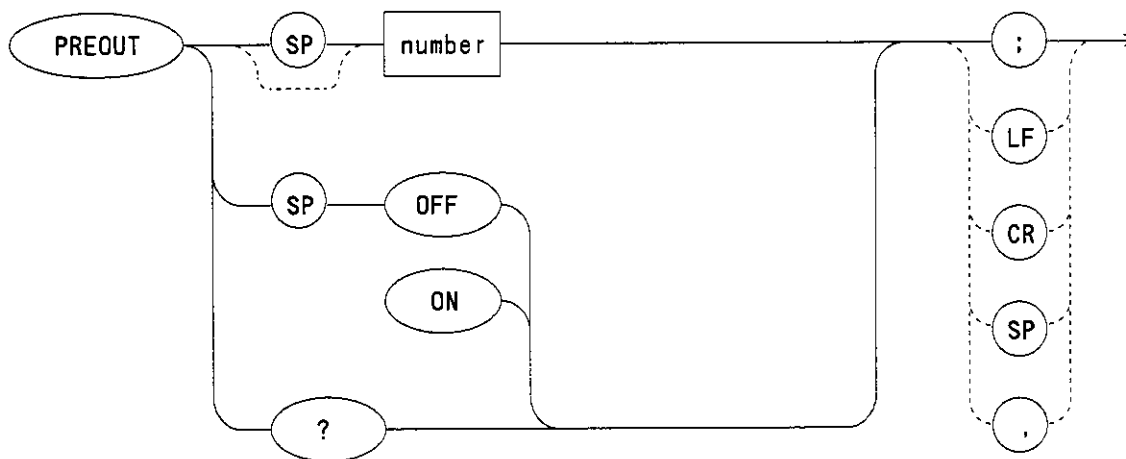
Same Commands

LO プリセクタのリニアリティ・チェックをオンします。
LF プリセクタのリニアリティ・チェックをオフします。

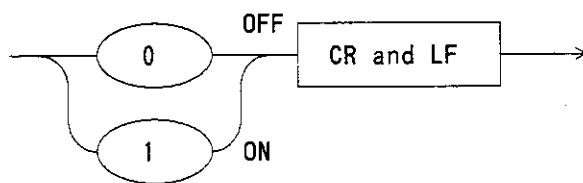
PREOUT

Preselector Output On/Off

Syntax



Query Response



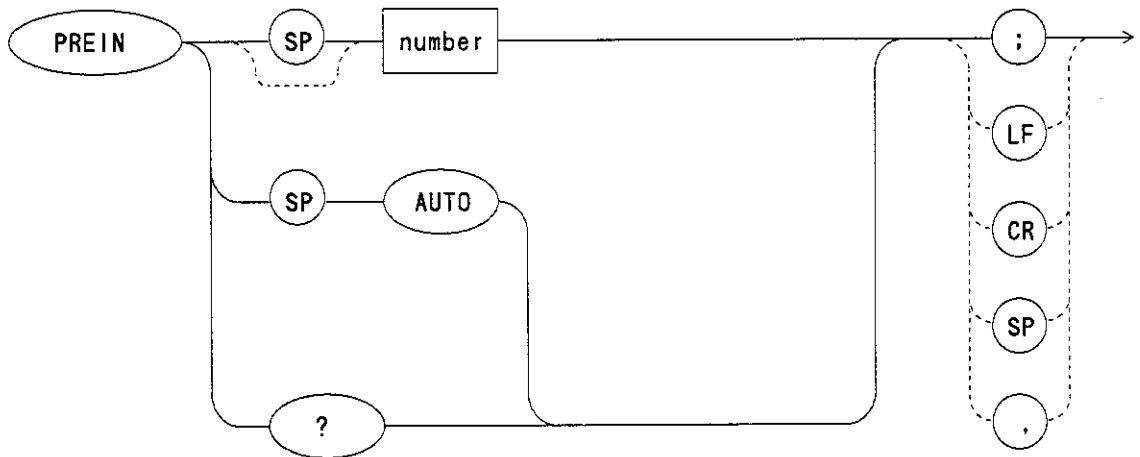
Parameter

number プリセクタからの出力をオン/ オフします。(0はオフ、1 はオン。)

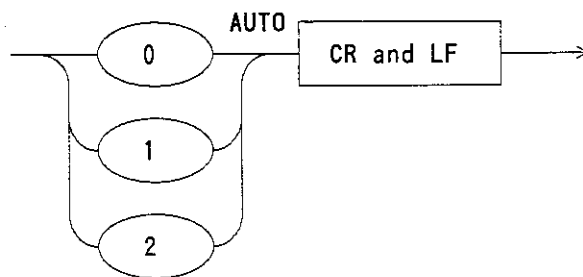
PREIN

Preselector Input

Syntax



Query Response



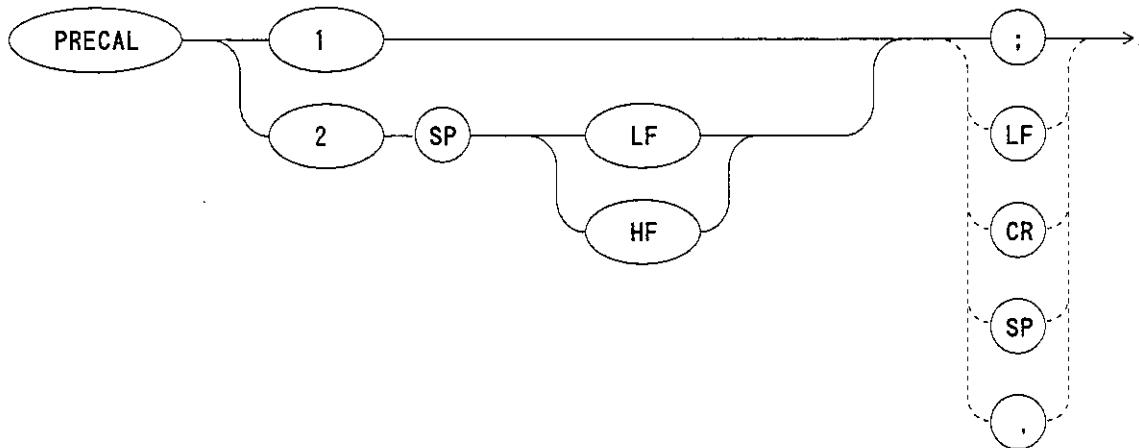
Parameter

number プリセクタへの入力を選択します。(0はAUTO、1または2は入力切替え)

PRECAL

Calibration for Preselector

Syntax



Parameters

- 1 2V/GHz のキャリブレーションを実行します。
- 2(LF) 入力1 のキャリブレーションを実行します。
- 2(HF) 入力2 のキャリブレーションを実行します。

6. 性能諸元

入力 INPUT 1
コネクタ : BNC
インピーダンス : 約50Ω
周波数範囲 : 9kHz～60MHz
周波数特性 : ±2dB (INPUT ATT 10dB, CAL 後、BYPASS基準)
最大入力レベル : +30dBm (INPUT ATT ≥ 30dB)

入力 INPUT 2
コネクタ : N
インピーダンス : 約50Ω
周波数範囲 : 20MHz ～3.6GHz
周波数特性 : ±2dB (INPUT ATT 10dB, CAL 後、BYPASS基準
SPAN ≤ 1GHz)
最大入力レベル : +25dBm (INPUT ATT ≥ 30dB)

バイパス回路 INPUT 1 : DC～60MHz
INPUT 2 : DC～18GHz

プリアンプ : 25dB ± 2dB (CAL後)

リニアリティ・チェック : 3dB ± 1dB

使用環境 : 0℃～+50℃, 相対湿度85%以下

保存温度範囲 : -20℃～+60℃

電源電圧 : AC 90V～132V, AC198V～250V

電源周波数 : 48Hz～66Hz

消費電力 : 100VA 以下

外形寸法 : 約177mm(高)×353mm(幅)×450mm(奥行)
ただし、ハンドル、足、前カバーは除く

重量 : 12kg以下

MEMO



付録

A.1 R3265/3271の画面表示

A.1.1 レベル・オフセット

R3553 が[表A-1]の設定のとき、プリアンプ・アッテネータによるレベル・オフセット値が、R3265/3271の管面左側に表示されます。

表 A - 1 レベル・オフセット表示の設定

POWER	ON
CAL	OFF
BYPASS	OFF
OUTPUT ON/OFF	ON

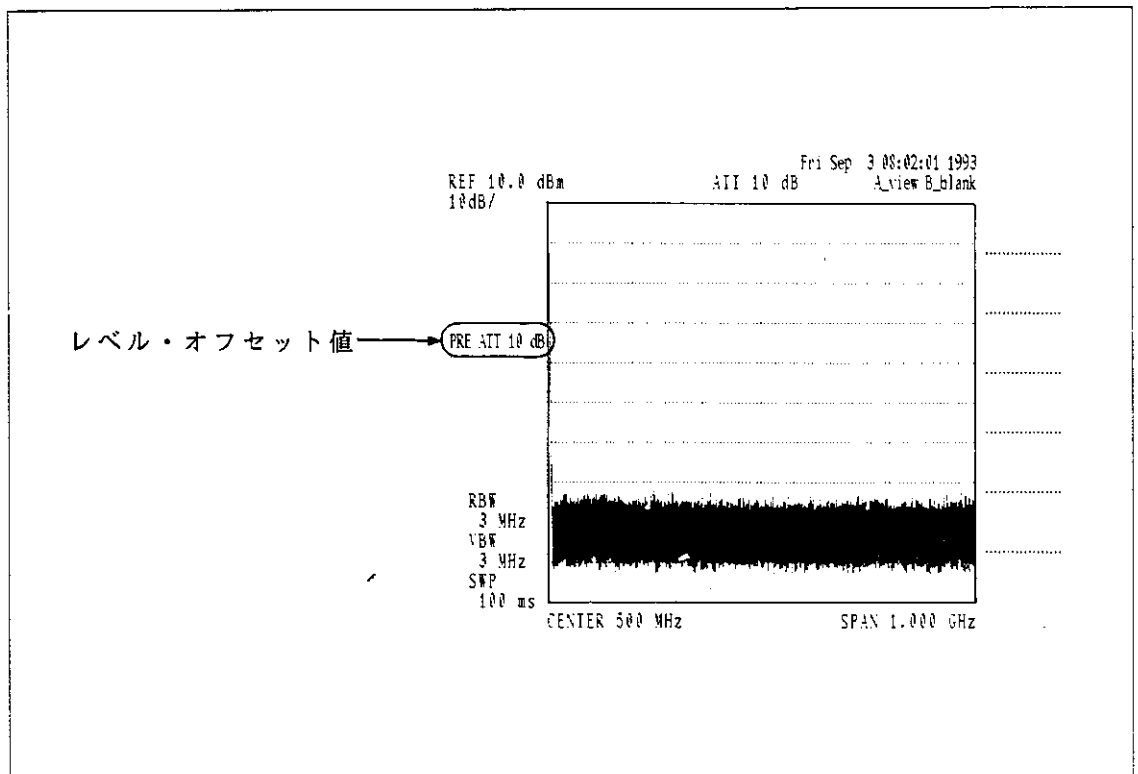


図 A - 1 レベル・オフセット表示

A.1.2 エラー・メッセージ

R3553 とR3265/3271の接続に関して、R3265/3271の管面に表示されるエラー・メッセージとその内容は、[表A-2]のとおりです。

表 A - 2 接続に関するエラー・メッセージ

エラー・メッセージ	内容
"External Instrument Preselector is inactive"	外付け機器 プリ・セクタの電源が切れました。
"External Instrument Preselector timed out"	外付け機器 プリ・セクタからの応答が得られず 時間切れになりました。
"External Instrument Cannot select X AXIS(Preselector)"	外付け機器 プリ・セクタを接続しているために、 背面パネルのコネクタ出力信号をXに 設定できません。

A.2 エラー・コード

R3553 は、故障またはケーブルの誤接続などに対し、エラー・コードを表示します。
 [表A-3]のエラーが発生した場合、ATCE、または最寄りの営業所まで連絡して下さい。
 所在地および電話番号は巻末に記載してあります。

表 A - 3 故障時のエラー・コード

エラー・コード	内 容
ROU2	ROM1エラー
ROU2	ROM2エラー
ERC1	アドレス・レジスタ・エラー
ERC2	データ・レジスタ・エラー
RA01	RAM1 エラー
RA11	CRAM1 エラー
RA12	CRAM2 エラー
RA13	CRAM3 エラー
RA14	CRAM4 エラー
RA15	CRAM5 エラー
RA21	I/F RAM エラー
RABK	CRAM BANK 切り換えエラー
ER20	2V/nGHz COMP エラー
CANC*1	CAL2チューニング・エラー

*1: CANCエラーについて

- CANCエラーは、FULL CALにおいて補正しきれないときに表示されます。
 このエラーにおいては、スキップ、または再CAL が可能です。



(UP)キー ; エラーとなったフィルタ・ブロックをとばして、
 次のフィルタ・ブロックのCAL を始めます。





(DOWN)キー ; エラーとなったフィルタ・ブロックの再CAL を
 を始めます。

- CANCエラーが発生してATCEに連絡するときは、エラーを起こしたフィ
 ルタ・ブロック名 (例. INPUT2, FIL2)も合わせて連絡して下さい。

表 A - 4 ケーブル誤接続時のエラー・コード

エラー・コード	内 容
UCAL	CAL1 エラー R3265/3271とR3553 を結ぶ2V/nGHz用ケーブルが接続されていません。
ER10	ハンドシェイク・エラー R3265/3271とR3553 を結ぶコントロール・ケーブルが接続されていません。
ER11	CAL2 エラー CAL信号が入力されていない、もしくは、R3553 とR3265/3271とのRF信号ケーブルが接続されていません。

索引

【A】		【い】	
ATT 	4 - 2	イニシャル・チェック	4 - 1
ATT 	4 - 2	イニシャル・チェック処理時間	4 - 1
AUTO	4 - 3		
【B】		【え】	
BYPASS	4 - 2	エラー・コード	A - 3
	5 - 4	エラー・メッセージ	A - 2
【G】		【か】	
GPIB	5 - 1	概説	1 - 1
GPIBコード	5 - 2	概要	5 - 1
		各キーの説明	4 - 2
【I】		【き】	
INPUT 1	4 - 2	基本的な使い方	4 - 1
INPUT 2	4 - 3	基本動作	4 - 2
		キャリブレーション	4 - 4
		キャリブレーション処理時間	4 - 5
【L】		【し】	
LIN. CHECK	4 - 2	使用開始の前に	1 - 2
LINCHK	5 - 5	使用周囲環境	1 - 3
		正面パネルの接続	3 - 1
		正面パネルの説明	2 - 1
【O】		【せ】	
OUTPUT OFF	4 - 3	清掃	1 - 4
		性能諸元	6 - 1
		製品概要	1 - 1
		製品パネル面の説明	2 - 1
		接続方法	3 - 1
【P】		【て】	
PREAMP	4 - 2	電源コードの確認	1 - 6
	5 - 3	電源条件	1 - 5
PREATT	5 - 2	電源投入の前に	1 - 5
PRECAL	5 - 8		
PREIN	5 - 7		
PREOUT	5 - 6		
【R】			
R3265/3271の画面表示	A - 1		

【は】

背面パネルの接続	3 - 2
背面パネルの説明	2 - 2
バックアップ	4 - 6

【ひ】

ヒューズの確認	1 - 5
---------------	-------

【ふ】

付属品の確認	1 - 2
プリセット	4 - 7

【ほ】

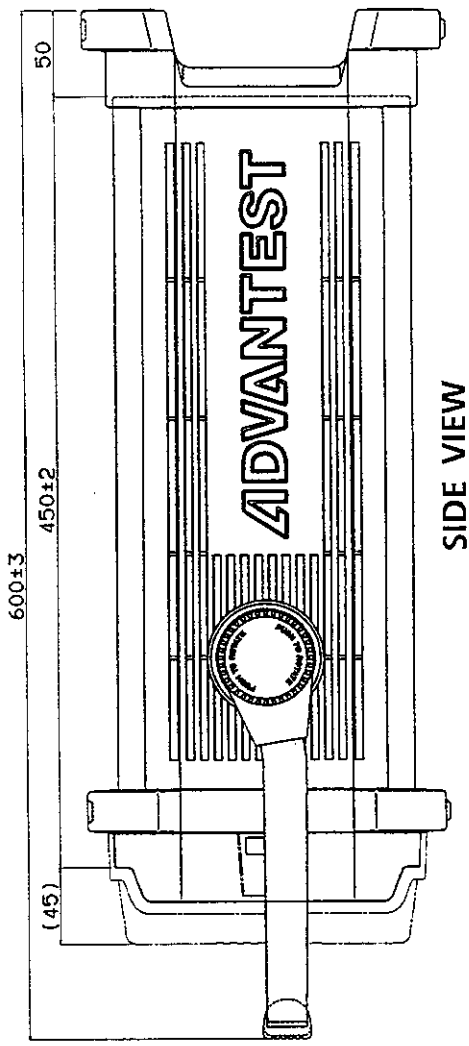
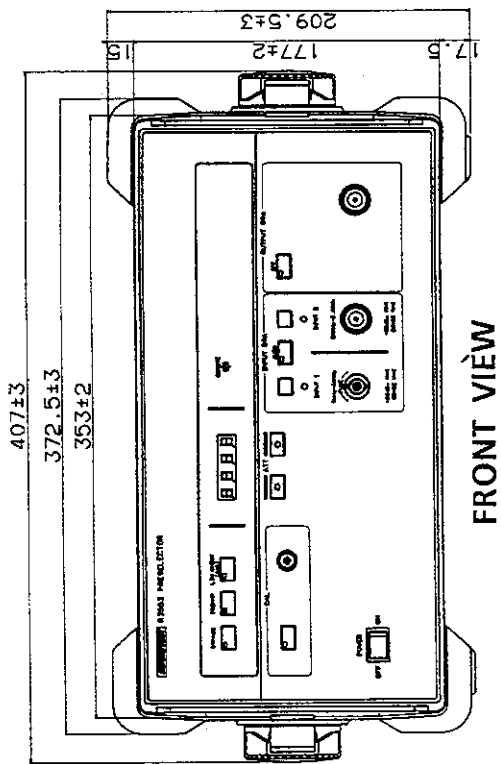
保存	1 - 4
----------	-------

【ゆ】

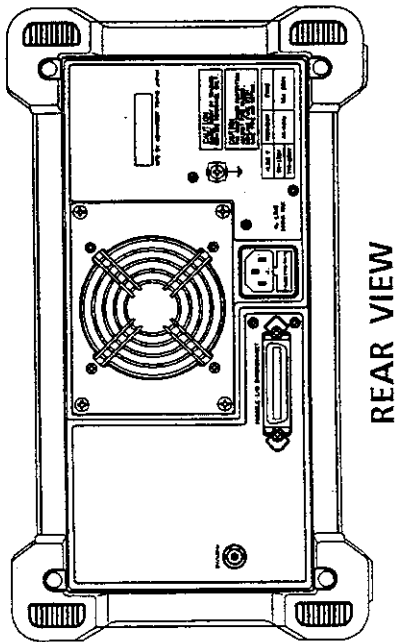
輸送	1 - 4
----------	-------

【れ】

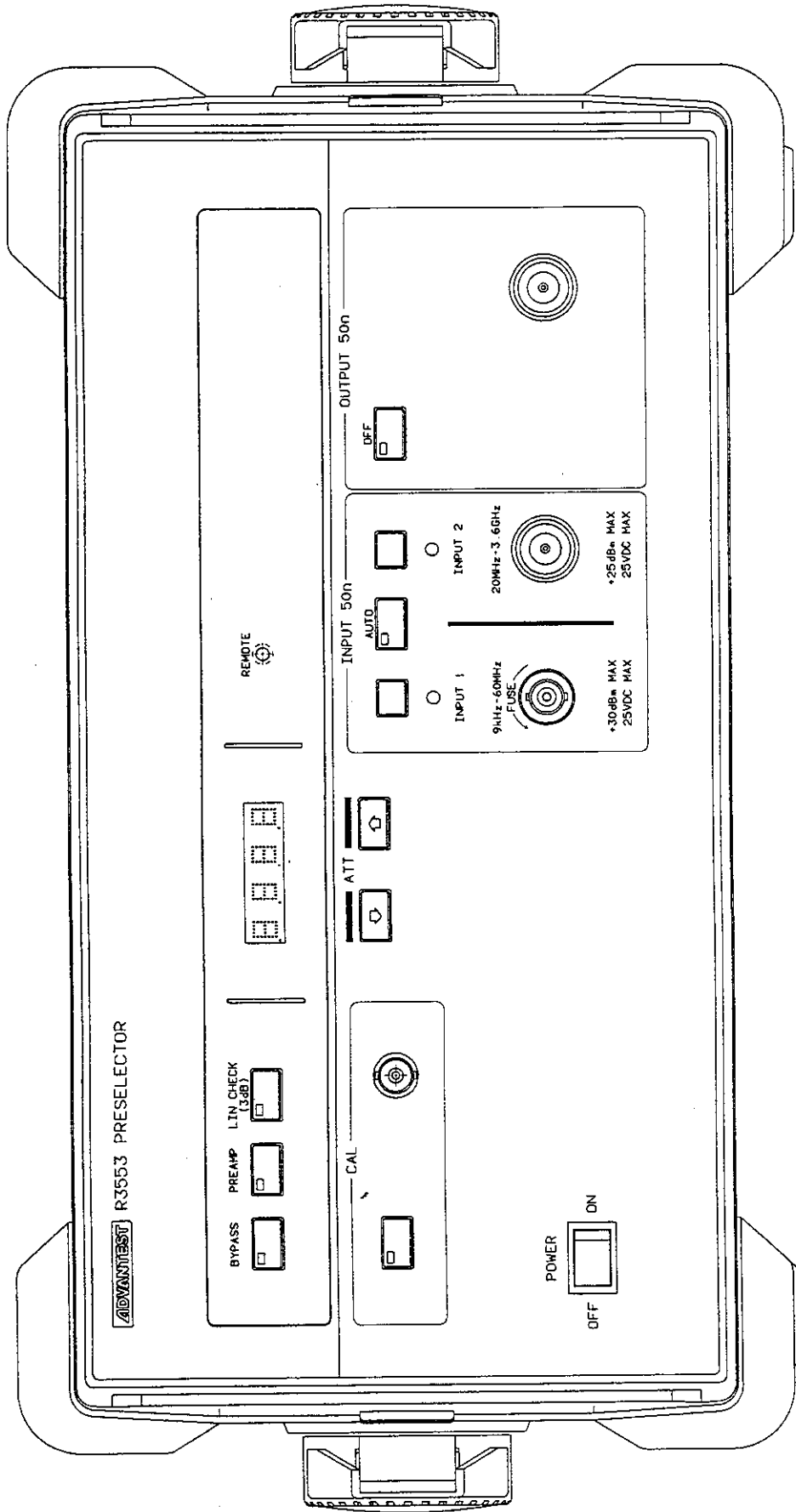
レベル・オフセット	A - 1
-----------------	-------



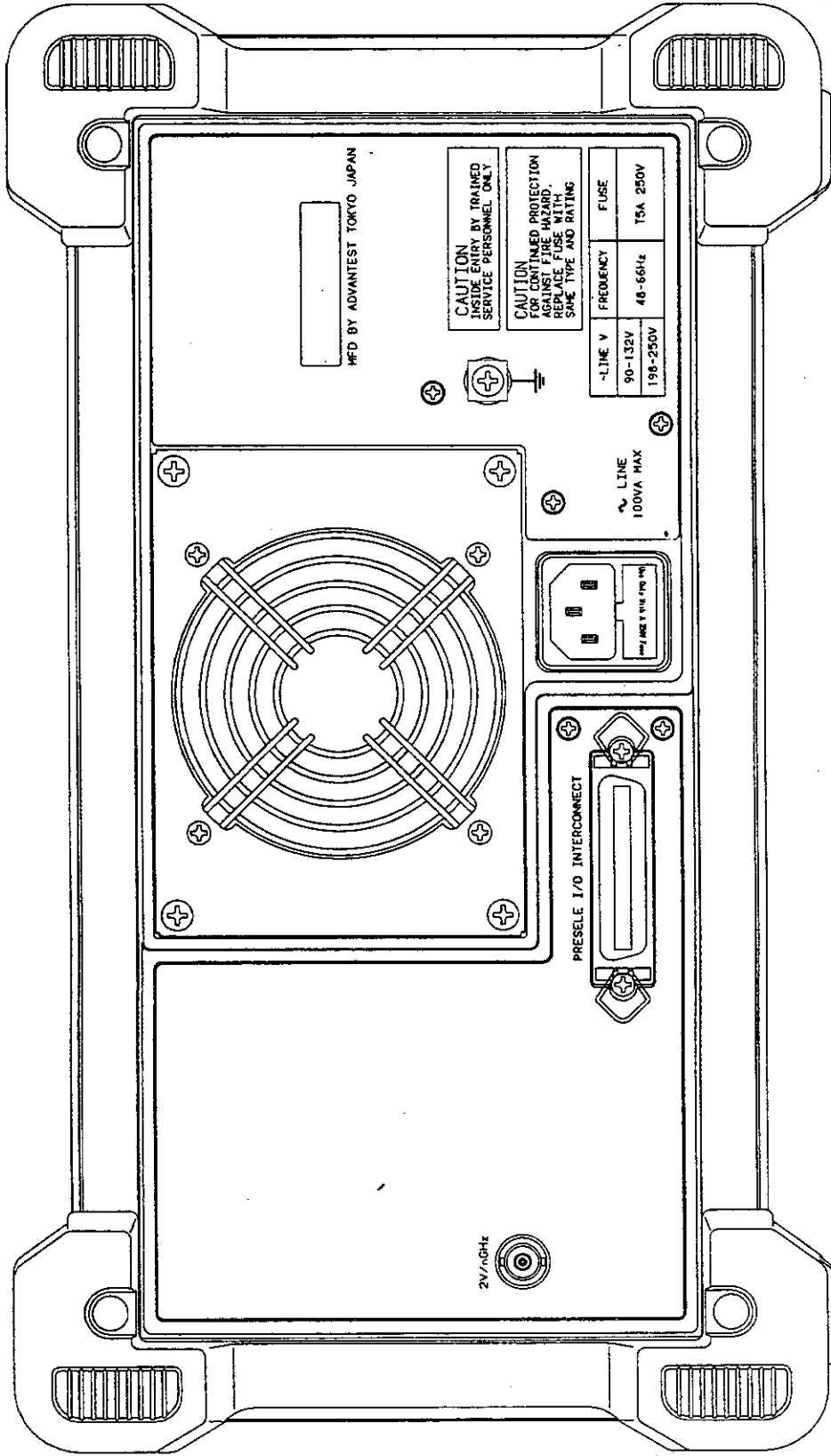
Unit: mm



R3553 EXTERNAL VIEW



R3553 FRONT VIEW



R3553 REAR VIEW

本製品に含まれるソフトウェアのご使用について

本製品に含まれるソフトウェア（以下本ソフトウェア）のご使用について以下のことにご注意下さい。

ここでいうソフトウェアには、本製品に含まれる又は共に使用されるコンピュータ・プログラム、将来弊社よりお客様に提供されることのある追加、変更、修正プログラムおよびアップデート版のコンピュータ・プログラム、ならびに本製品に関する取扱説明書等の付随資料を含みます。

使用許諾

本ソフトウェアの著作権を含む一切の権利は弊社に帰属いたします。

弊社は、本ソフトウェアを本製品上または本製品とともに使用する限りにおいて、お客様に使用を許諾するものといたします。

禁止事項

お客様は、本ソフトウェアのご使用に際し以下の事項は行わないで下さい。

- 本製品使用目的以外で使用する事
- 許可なく複製、修正、改変を行う事
- リバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルなどを行う事

免責

お客様が、本製品を通常の用法以外の用法で使用したことにより本製品に不具合が発生した場合、およびお客様と第三者との間で著作権等に関する紛争が発生した場合、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。

保証について

製品の保証期間は、お客様と別段の取り決めがある場合または当社が特に指定した場合を除き、製品の納入日(システム機器については検取日)から1年間といたします。保証期間中に、当社の責めに帰する製造上の欠陥により製品が故障した場合、無償で修理いたします。ただし、下記に該当する場合は、保証期間中であっても保証の対象から除外させていただきます。

- 当社が認めていない改造または修理を行った場合
- 支給品等当社指定品以外の部品を使用した場合
- 取扱説明書に記載する使用条件を超えて製品を使用した場合(定められた許容範囲を超える物理的ストレスまたは電流電圧がかかった場合など)
- 通常想定される使用環境以外で製品を使用した場合(腐食性の強いガス、塵埃の多い環境等による電気回路の腐食、部品の劣化が早められた場合など)
- 取扱説明書または各種製品マニュアルの指示事項に従わずに使用された場合
- 不注意または不当な取扱により不具合が生じた場合
- お客様のご指示に起因する場合
- 消耗品や消耗材料に基づく場合
- 火災、天変地異等の不可抗力による場合
- 日本国外に持出された場合
- 製品を使用できなかったことによる損失および逸失利益

当社の製品の保証は、本取扱説明書に記載する内容に限られるものとします。

保守に関するお問い合わせについて

長期間にわたる信頼性の保証、国家標準とのトレーサビリティを実現するためにアドバンテスでは、工場から出荷された製品の保守に対し、カスタム・エンジニアを配置しています。

カスタム・エンジニアは、故障などの不慮の事故は元より、製品の長期間にわたる性能の保証活動にフィールド・エンジニアとしても活動しています。

万一、動作不良などの故障が発生した場合には、当社のMS(計測器)コールセンターにご連絡下さい。

製品修理サービス

- 製品修理期間
製品の修理サービス期間は、製品の納入後10年間とさせていただきます。
- 製品修理活動
当社の製品に故障が発生した場合、当社に送っていただく引取り修理、または当社技術員が現地に出張しての出張修理にて対応いたします。

製品校正サービス

- 校正サービス
ご使用中の製品に対し、品質および信頼性の維持を図ることを目的に行うもので、校正後の製品には校正ラベルを貼付けし、品質を保証いたします。
- 校正サービス活動
校正サービス活動は、株式会社アドバンテス カスタマサポートに送っていただく引取り校正、または当社技術員が現地に出張しての出張校正にて対応いたします。

予防保守のおすすめ

製品にはエレクトロニクス部品およびメカニカル部品の一部に寿命を考慮すべき部品を使用しているため、定期的な交換を必要とします。適正な交換期間を過ぎて使用し発生した障害に対しては、修理および性能の保証ができません場合があります。

アドバンテスでは、このようなトラブルを未然に防ぐため、予防保守が有効な手段と考え、予防保守作業を実施する体制を整えています。

各種の予防保守を定期的実施することで、製品の安定稼働を図り、不意の費用発生を防ぐため、年間保守契約による予防保守の実施をお勧めいたします。

なお、年間保守契約は、製品、使用状況および使用環境により内容が変わりますので、最寄りの弊社営業支店にお問い合わせ下さい。

ADVANTEST

<http://www.advantest.co.jp>

株式会社アドバンテス

本社事務所
〒100-0005 千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービルディング
TEL: 03-3214-7500 (代)

第4アカウント販売部(東日本)
〒100-0005 千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービルディング
TEL: 0120-988-971
FAX: 0120-988-973

第4アカウント販売部(西日本)
〒564-0062 吹田市垂水町3-34-1
TEL: 0120-638-557
FAX: 0120-638-568

★計測器に関するお問い合わせ先

(製品の仕様、取扱い、修理・校正等計測器関連全般)

MS(計測器)コールセンタ ☎ TEL 0120-919-570
FAX 0120-057-508
E-mail: icc@acs.advantest.co.jp